

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立農業高等学校

活動の実際（単元名）

造園科 3 年（環境マネジメント類型） 教科「農業」
科目「総合実習」「造園計画（選択 C）」

指導目標

教科「農業」において、将来の地域を支える人材を創出することを目標の一つとしている。

- ・地域住民の多様性、個性を生かした農業、環境づくりを学ばせる。
- ・交流及び共同学習の中で「社会性」「指導性」を育ませる。

事前学習

- ・科目「造園計画」「造園技術」において緑のもつ「癒し」の効果について学ぶ。
- ・県立淡路景観園芸学校にて、園芸療法や景観マネジメントについて学ぶ。（5 月実施）
農業や園芸が人の精神や身体へ与える効用を利用して、高齢・障害などの理由で支援を必要とする人々に対して、健康の増進や生活の質の向上などを目的として行なう園芸療法や、景観や環境を生かしたまちづくり、地域交流について学ぶ機会を設けている。

学習活動（具体的な取組）

（共同学習）

県立いなみ野特別支援学校陶芸班作製の器を使った多肉植物の寄せ植え

- （1）開会（挨拶・自己紹介・日程説明）
- （2）本校造園科の実習地の案内（日本庭園）
- （3）グループ分け
- （4）①多肉植物の説明
②寄せ植への作り方の説明
③実習・多肉植物を選ぶ
・配置決め、植え付け
・カラーサンド、マスコット
④片付け
- （5）閉会（挨拶・記念撮影）

支援と留意点

【事前準備】

- ・生徒情報の交換（グループ分け）
- ・用具の準備（安全確認）
- ・環境整備（整理整頓、清掃など）
- ・説明用のポスター作り（イラスト入り）
- ・名札づくり（呼びやすくする）

【実習時】

- ・実習の安全確認、安全指導
- ・話し方の工夫
- ・専門用語の説明
- ・自主性を生かした創作

評価

本校での評価方法（実習時）

- ・関心・意欲・態度：積極的な実習参加
- ・思考・判断：作品作りのポイントの理解、安全指導
- ・技能・表現：作品の評価
- ・知識・理解：まとめノートの提出

活動の様子



植え付けの様子

多肉植物の色、形、高さ、質感、配置の仕方など、ポイントを説明しながら実習に取り組む。また、できるだけ個性が発揮できるようサポートする。

完成させた作品など

マスコットやカラーサンドを用いて、見た目にも明るくなるようにしている。完成した作品は、本校の県農祭（文化祭）で販売する。

事後学習

本校での学習後に、いなみ野特別支援学校での共同学習（陶芸体験）を実施する。2 回の交流を実施後に、特別支援学校の生徒に向けた感想、メッセージを送っている。
また、授業の一環として、学習内容のまとめノートを作成している。

成果と課題

【成果】

将来の地域を支える人材として、指導力を身に付けることができた。さらに多様な人々とかかわることで、農業の持つ可能性について学ぶことができた。

【課題】

交流及び共同学習としての機会をさらに発展させ、自主的な学びを積極的に取り入れたい。また、課題研究などで学習の深化につなげたい。

本校は販売会やイベントへの参加も多くあるので、この交流及び共同学習の作品を展示できるような機会を多く設けたい。